第４回 栗東市観光振興戦略会議　会議概要

■日時：令和８年２月17日（火）　午後３時00分～午後５時00分
■場所：栗東市役所３階　談話室
■出席：《委員》
上田 雄三郎委員（会長）、田中 義信委員（副会長）、山本 高之委員、
清水 厚芳委員、鶴田 泰伸委員、濱田 康之委員、高田 麻里委員、
奥村 和也委員、林 優里さん（杉田 健一委員の代理）
《オブザーバー・運営組織》
一般社団法人栗東市観光協会 山口 翔太郎事務局長
《委託事業者》
㈱しがぎん経済文化センター
《事務局》
環境経済部長、商工観光労政課長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：《委員》
杉田 健一委員（林 優里さんが代理出席）

１．開会
（環境経済部長）

２．市民憲章唱和

３．あいさつ
（上田会長あいさつ　省略）

（事務局）
・本会議内容は原則公開。
・本日の傍聴者は０名。

４．報告事項
（１）第二期栗東市観光振興戦略の成案について（報告資料１－１、１－２）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員　：27 ページ「推進体制」について、「まちづくり団体」はどこを想定しているのか。また、「観光事業者」は観光戦略を推進していくに当たって、どの程度を見込んでいるのか。具体的にはどのようなターゲットをある程度見定めて進めていく感じなのか聞きたい。

事務局：「まちづくり団体」はいろいろあると思うが、例えば「奥こんぜ農泊推進協議会」や「明日の走井を考える会」などは、まちづくり団体に当たるのではないか。地縁の団体もあれば NPO のような団体もあるだろう。そうした団体も一緒になって取り組んでいくものと考えている。観光事業者と商工事業者の違いは難しいところだが、特に観光業に携わっている方々を観光事業者という呼び方をしている。観光をどう捉えるかによって線引きは変わってくると思うが、言葉の使い分けで現状、このような記載になっている。

委員　：了解した。具体的にどこかの団体や事業者に打診して、一緒にやっていこうというイメージがあるかないかで進捗がだいぶ変わってくると思ったので、確認させてもらった。

会長　：この観光振興戦略の成案にあたり、議会で質問などはなかったか。

事務局：議会で特に意見等はなかった。

会長　：了解した。

委員　：29 ページについて、来年度（令和 8 年度）に令和 9 年～11 年度の実行計画を作ると書いてあるが、8 年度については実行計画を立てるのか。

事務局：本来は今日の協議事項で 8 年度の案をお示ししたかったが、事務局の手配が遅れていて実行計画まで至っていないため、今回は「新たな事業の概要（案）」の説明をするにとどめたい。8 年度の実行計画については、基本的には 3 カ年ローリングのような形で 8・9・10 年度の 3 年間をどのような流れで進めていくか、ロードマップのようなものも含めて作れたらと考えている。また、市の総合戦略の関連部分との整理も必要だと思う。何より、具体的に何をするのかという「アウトプット」のようなものをしっかりと示していきたい。そうした中で基本的には本日お示しする「令和 8 年度　新たな事業の概要（案）」などが 8 年度の主な事業として実行計画の中で示されていくと考えている。内容につい

ては後ほど協議事項の際に説明したい。

委員　：後ほど８年度の“新たな”部分はお示しいただけると思うが、継続的に実施する事業やそれらに対するブラッシュアップ・変更も出てくると思う。29 ページに記載の会議予定では、５～６月の会議は次年度のことをやろうと書いてあるが、８年度のこともしっかり議論したほうがいい。５～６月の予定を前倒しして早めに取り組むべきではないか。

事務局：ご指摘の通り、８年度の事業についてもご意見頂戴できるように、できるだけ早めに対応していきたい。

５．協議事項

（１）令和８年度　新たな事業の概要（案）について（協議資料１）

〇事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

〈クラウドファンディングによる金勝山ハイキングコース修繕事業〉

委員　：クラウドファンディングをしていただくのは、どのような方を想定しているのか。

事務局：金勝山ファンは非常に多く、おそらく市外の方も含めて来ていると思う。そのため、ふるさと納税なども活用しながらクラウドファンディングのスタイルで進めていきたい。

委員　：一般的なクラウドファンディングをイメージしていたが、どちらかというとふるさと納税を上手に使いながらという方針か。

事務局：そのとおりだ。クラウドファンディング型のふるさと納税を想定している。一方で、市内でも応援するよという方がいれば、もちろんありがたくお受けしたい。進め方についても、関係団体にも相談しながら、例えば地域貢献型ツアーなどもあるので、材料支給のような形で材料だけ手配させていただいてツアーの中で修繕するというようなことも検討できればと思っている。そのあたりも含めて今後、制度設計をしていきたい。

委員　：長年、商工会では「低炭素構築貢献事業」という形で会員に一口 1 万円の給付を募って、金勝生産森林組合に下草刈りなどを含めてさせていただいている。法人にとっては寄付金扱いになるので、税金を納めるのか、寄付金をするのか

という形にもなってくるかと思う。ふるさと納税であれば税額控除の対象になるし、ふるさと納税の法人版による物品提供でも法人税の減免になる。この資料の内容だと一般的なクラウドファンディングにしか見えないし、また市民の参画を求めていくなら、例えば修繕した部材の一部に市民の名前を彫って設置するとか、イベント型の寄付というやり方もある。この制度設計はもっと掘り下げていけば広くできる。何十年か前、青年会議所でボランティアとして金勝山のハイキングコースに看板を立てさせていただいたことがある。このあたり、観光振興戦略の中での「まちづくり団体との連携」もクラウドファンディングをすることで多種多様に絡んでくるのではないか。制度設計をしっかり検討した方がいいのではないか。

事務局：できるだけ多くの方々に関わっていただきながら進めることで、より効果が上がるのではないかと思う。制度設計の時から関わっていただけるように進めていきたい。

会長　：今の話、例えば市が商工会と一緒に何かやっていくみたいな形は考えられないか。

事務局：ご協力いただけるのであれば、もちろん一緒にやれたらと思う。

会長　：商工会さんとしてはそのあたりはどうか。

委員　：これに関しては、金勝生産森林組合さんと何年間かの締結契約をしている。100 万円の寄付を集めた上で、80 万円ほどは下草の整備事業に使っていただき、残り 20 万円は商工会で内部ツアーをしたり、金勝生産森林組さんがやっている栗園（くりえん）の栗が商工会にいくらか戻ってきたりという感じだ。それ以外でもフォレストクラブという形でしていて、ザルツブルグさんで「へそくりパイ」「へそくり饅頭」を発売させていただいて、その一部を寄付という形で森に戻すことで、最終的には CO2 削減という形で認証証書が出ている。システムとしてかなりでき上がったものが 10 年以上続いているので、新たなコラボレーションを乗せにくいかもしれない。また担当委員会と話をしていただいたら何か方法があるかもしれないが…。

会長　：できるところから、例えば告知など少しでも何か一緒にやることによって、大きなウェーブになったらなと思うが、いろいろ課題があるというのは了解した。

事務局：会長のご指摘のとおり、できる限り周知を図っていくことも非常に大切だと思うので、またよろしくお願いしたい。

委員　：これは行政が主体となってやるガバメントクラウドファンディングというイメージなのか。もしそうだとしたら、今まで行政が主体でクラファンをしたことはあるのか。

事務局：商工観光労政課としては初の試みだが、例えばシティプロモーション課がくりちゃん関連の雨合羽の制作でクラファンを実施するなど実績があるので、同じようなスキームで進める予定だ。

委員　：栗東市としてこれまでもやっていたというのは全然知らなかった。ちなみに成功したのか。

事務局：オールイン方式という、目標額は設定するが目標を達成しなくても集まった寄付分で実施するやり方で実施した。例えば、100 万円を目標にして 70 万円しか集まらなくても、その 70 万円で実施するという流れなので、着実に事業を進めることができると考えている。

委員　：当社でも今まで何度かクラウドファンディングをしたことがある。今回、対象を「金勝山ハイキングコースの修繕事業」にしたのは、栗東の観光資源の中でここを優先的に着手していきたいという認識によるものか。

事務局：どちらかというと、金勝山ハイキングコース修繕に関してどれだけ要求しても予算がつかなかったからだ。苦肉の策としてクラファンで資金を集めてみたらどうかというアドバイスあり、今回やろうということになった。これに限らず、他の政策に対しても必要に応じてやっていけばいいのではないかと考えている。

委員　：このクラファンをする場合の流れが知りたい。令和 8 年度の 1 年間かけて集まった金額を使って、令和 9 年度に修繕するということか。

事務局：令和 8 年度に執行する方向で考えているので、クラファン期間は 1 年間ではなく、ある程度早い段階で一旦区切るような形になると思う。まだ詳細は詰められていないが、基本的には 8 年度に進めたい。

委員　：ということは、資料に記載の修繕料 100 万円は最初からついている予算ではな

いということか。

事務局：そうだ。基本的には費用をそれだけ集めて修繕してくださいということだ。

委員　：単刀直入に聞くが、市では予算がつかない事業に対して、なぜこれだけ力を入れるのか。お金をつけないと言われている事業をクラファンに頼ってやるというのは、行政の事業としては意味がないと言われているのに、誰がやりたいと言っているのか。

事務局：厳しいご意見だが、やる必要がないから予算がつかないのではない。優先順位として他の事業が上回った結果だ。このハイキングコースの修繕は必要ないと言われているわけでは決してないが、財政の方から常に言われるのは「財源を持ってこい」と。このような事業に充てられる財源が見つからないというのが正直なところなので、利用者が多い金勝山ハイキングであれば、ハイカーの皆さんにご協力いただくことで進めていきたいと考えている。

委員　：ちょっといじわるな質問で申し訳なかった。こうやって協議もしているので、動き出したら、我々もそれぞれ SNS などでの呼びかけに協力したい。

事務局：ありがとうございます。

委員　：今の説明は表向きにはあえて言わない方がいいと思う。金勝山ハイキングコースにもっと注目してもらうために、クラウドファンディングやふるさと納税型を実施することによって、自分たちが歩く道をみんなで改修しようじゃないかという機運の盛り上げ方をしていくほうがいい。予算がつかないからではなく、ハイカー一人ひとりが愛着を抱いて、「また訪れよう」といった感覚を持ってもらうような仕組みとし動いた方が整合性も取れるのではないか。

事務局：ご指摘のとおりだと思う。ありがとうございます。

委員　：栗東側から金勝山に登る方はどのくらいいるのか。

観光協会 山口：観光協会の事務局では正確な数値を把握できていない。今年度事業の観光庁の ICT ピッチトークなどで ICT 技術を活用した AI カメラによる測定を試みたが、公募をしたものの残念ながら採択に至らず、現状では数値を把握していない。大津市側には駐車場があるので概ね数値が出ており、ほぼ大津市から

の流入になっている。

事務局：市としては、観光入込客数調査の数字としては約４万 2,000 人となっている。ただ、いろんなところからハイキング行けるため、正確な数字が測れないのはもどかしい状況だ。こういった点も ICT 技術などを活用しながら、できるだけ精度の高い数字を取りに行きたいと考えている。

委員　：これまでに、駐車料金や、保全のための費用を利用者から集めるという考えはなかったのか。

事務局：過去のことはわからないこともあるが、現状は、桐生川にある一丈野の駐車場のようなしっかりとした駐車場が確保できていないというのが栗東市の課題かなと考えていて、金勝山のどこかに何か公共交通が伸びてくる、あるいはしっかりした駐車場を確保して料金収入を得る、そうしたこともこれから考えていくべき課題だと認識している。

委員　：観光協会としても、金勝山ハイキングというのは目玉商品であるものの、インフラが整ってないということが大きな課題だ。栗東市に金勝山ハイキングという資源がありながら、そこにたどり着けないところが非常に大きな課題であり、以前から市にはそういう話はしているが、なかなか優先順位が上がらない。協会としても、まだまだ PR の仕方が悪いのかなと思ったりしている。それは、元々この栗東というまちが観光でお金を稼ぐという考え方ができてなかったからではないか。そういう中で、今回のハイキングコースの修繕というクラウドファンディングは、まさに注目していただける非常に大きな材料だと感じている。注目してもらうことで、今後、インフラ整備をどんどんしていこうという機運に繋がっていくのではないか。とてもいい企画だと思う。また、市内にはいろんな団体がある。県内の小学生が１泊研修する「やまのこ」事業で使う森の未来館という施設もある。そういうすばらしい施設もありながら、ハイキングコースがあまりうまくできてないという課題がある。体験交流センターも元々は市がつくった森林体験の施設。今はフォレストアドベンチャーさんや他の団体でいろんなことをやっているが、そもそも論として、栗東にハイキングコースがあれば、市民はいつでも無料で楽しめる。こういったことは子どもたちも関連するのでいろんな団体もある。どんどんPRして、予算以上に集まることになればと期待しているので、我々も一生懸命頑張っていきたい。皆さんも告知をよろしくお願いします。

委員　：皆さん熱弁いただいたので、逆に目標金額 100 万円がもったいないなと感じた。欲をかけば、整備が整ったら、今まで大津側からしか登ったことなかった人が「栗東側から行きたかったのだよね」「駐車場があったらな」みたいなファンが高まるなら、もっと金額を大きく掲げてもいいのではないか。ただ、集まらなかったときにどうするかは計画しておいて、木道とか、歩道だけじゃない整備にも役立ててもらえる柔軟な事業になるといいのではないか。

事務局：前向きなご意見、とても心強く思う。今後、制度設計などを進めていくが、100 万円が高いか低いかという議論もあると思うので、状況を見ながら必要に応じて補正予算なども考えていけたらと思う。

〈滋賀ディスティネーションキャンペーン（DC）に向けた観光施策〉

委員　：滋賀 DC は、滋賀県全体にさまざまなチャンスが生まれると思うが、「馬のまち栗東」ということで、主な取り組みの中に「VR による馬体感コンテンツ等」がある。これはすごく導入しやすい、リスク低く取り組めるものだと思うが、せっかく実際の馬がいるので、その活用も考えていくべきだと思う。DC の先でホースパーク構想も進んでいるからには、市外だけではなく市内の方にももっと馬のことを知ってもらう機会を、滋賀 DC を契機に作っていくべきではないか。次の〈観光イベント等補助事業〉に絡めてもいいと思うが、もっと実馬（じつば）の活用による市内外の方の認知度…たぶん市外の方の認知度のほうが高いので、市内の方に「馬のまち」をもっと知ってもらうところも取り入れたいと感じた。

事務局：ご指摘の通りだと思う。従来も議論してきたとおり、バーチャルの馬とリアルの馬の両方を体感していただくようなことを、本番に向けて取り組んでいきたいと考えている。引き続きご協力をお願いしたい。

委員　：主な取り組みのところにそのような内容を記載していないのは何か理由があるのか。

事務局：先ほども少し申し上げたが、予算ベースで記載をしているので、リアルな馬を体感いただく部分は予算化・具体化されてないため、記載がない状態だ。ないからやらないというわけではなく、準備は進めていきたいと考えている。

委員　：滋賀 DC に関連してたくさん事業を考えていただいており、大変ありがたい。滋賀県では、11 月の補正予算で、DC に関する「観光コンテンツ創出事業」と

いうことで、予算化されている事業者向けにコンテンツ造成にかかる費用の２分の１を支援するというメニューになっている。記載いただいている全国宣伝販売促進会議の素材集は、秋に向けて作っていくので、おそらく５月頃には素材集に掲載するネタを整理して集めて…というタイミングになると思う。素材集に載らなくても会議の場で案内していただくことはできると思うが、掲載する場合はタイムスケジュール的に前倒ししていただく必要があろうかと思う。また県としては、DC 期間以降も収益が上がるようなコンテンツ開発をお願いしているので、スタート時は行政支援が入って開発するということもあると思うが、今後の収益性や継続性を最初からイメージして作っていただけるとありがたい。

事務局：補正予算案については、栗東市としても昨年の 12 月補正で一部予算化して観光協会に委託させていただいている。バーチャルとリアルの馬の企画をどういった形でタリフとして盛り込んでいくかについても準備を進めており、素材集に何とか掲載する方向で進めていきたい。またご指摘いただいたとおり、この DC を一つのきっかけにして、「馬のまち栗東」のコンテンツを経常的なものとして進めていけるよう、意識して取り組みたい。

委員　：特別コンテンツについて、具体的にどのようなプログラムを検討されているのか。ある市町では庁内の全部署にアイデア出しの号令をかけて、無責任な意見も含めて集約して整理しているところもある。DC は JR が宣伝をしてくれるが、その宣伝は「滋賀県」なので、滋賀県に来た人がどこに行こうか・何をしようかというのは、どういう体験ができるのか、どういうプログラムがあるのかという差別化が非常に重要だと思う。馬コンテンツは非常にいいと思うが、それ以外に DC 期間だけ体験できるような特別な何かを具体的に検討しているのか。

事務局：この会議でも「馬のまち」が尖っている部分だというご意見もいただいており、馬を中心に「馬のまち」を推していこうという企画を練っているところだ。それ以外では、東海道や中山道があるという「歴史街道のまち」という観点から街道をうまく使いたいという思いがある。残念ながら栗東市には宿場がないので、草津市、湖南市、栗東市の３市で連携できないかということで、宿場・立場（たてば）をポイントにした企画を考えている。三つほど観光ルートを提案しようということで、一つは地酒に特化した「酒蔵巡りと宿場・立場の御朱印巡り」というテーマで、それぞれの宿場を体感いただくもの、もう一つは「紅葉のナイトツアー」を企画している。今、３市で連携しながら進めていて、またタリフ化していきたいと考えている。

委員　：馬のコンテンツについて、VR はだいたいイメージできるが、どこで実施して、VR は何台ぐらい、体験料金はいくらといった設計などはどのような感じで考えているのか。

事務局：今検討しているのは、ドーム型 VR というものを提案いただいていて、ゴーグルをつけなくてもドームの中に映し出されるというものだ。ドーム型 VR を健康器具の「ジョーバ」のようなものに座っていただき、馬に乗っているような感覚を持ちながら栗東市内の観光ツアーを仮想空間で体験する、という内容をベースに進めたいと考えている。料金は取る取らないを含めてまだ設定していない。できれば駅から近い場所、例えば栗東駅なら「さきら」が有力ではないか、手原駅なら観光案内所のあたりで設置するのがいいのではないかと思っているが、管理者との協議・調整がまだできていないので何とも言えないところ。バーチャル部分にプラスして、例えばさきらや、手原だと公園や空き地などで、社会実験的にリアルな馬を体感できるようなことができないか考えていきたい。

委員　：馬の観光コンテンツとしての活用について、JRA と協議や接触などはしているのか。

事務局：今のところ JRA とはやっていない。まずは JRA 頼みではない形で進めていけたらと思っている。最終的には繋がっていくだろうと思うが、こちらから何かをお願いするという状況からは脱却したいと思っている。

委員　：一昔前は「JRA に」という姿勢だったと思うので、たいへん心強い。「馬のまち栗東」は要するに、トレーニングセンターがある競走馬という点が競馬ファンに向けた魅力的なコンテンツだと思う。先ほどの VR 企画はすごくおもしろそうだなと思ったが、このキャンペーンで栗東市に行ったら、現役の競走馬は難しくても引退競争馬に会える、触れ合える、乗れるとか。弊社は今、高島でやっているので、このままだと高島のうちの施設に取られるのじゃないかと、ちょっと感じている。

事務局：その点はまたご協力をお願いしないといけないと思っているが、他にも大宝神社も二頭ほど神馬を飼育する予定だと聞いているので、連携しながら進めていきたいと考えている。また先日 15 日まで、ウマ娘とのコラボイベントを初めて栗東市で開催したが、非常に盛況だった。やはり馬に興味を持っている方はたくさんいて、栗東の馬の情報発信という点においても、ウマ娘のファンの方々

も栗東が提供する馬の情報に非常に興味を持っていたり、シンザン像前で記念写真を撮りたいという声があったり、やはりそういうニーズはあることが今回わかってきた部分もある。このようなニーズにいかに応えていけるかというところも重要だと考えている。

委員　：JRA 以外の栗東市内の民間事業者もどんどんうまく使っていただきたいと思っているので、またお声掛けください。

委員　：目玉は VR だと感じて、それに、さきらや手原という JR の沿線が拠点になって、多くの人が来てくれることを期待すると、やはりそこからいかにして市内の施設への経済波及を実現するのかを考えると、事業車への補助のような事業もこの中にもあってもいいのではないか。この会議でも過去何度か意見が出たと思うが、馬をテーマにしたカフェメニューやお土産を開発するのに補助いただけるとか。VR を見て「うわ、馬すごいやん！」となった流れで、いかに市内で食事や買い物をしてもらえるかも組み込んでいただけるといいのでは。あと、別の会議でのことだが、歴史民俗博物館で、街道関連で近隣の市と連携して、街道の絵巻物の復刻みたいなことを考えているとちらっと聞いた。タイミングとして同じ時期かどうかわからないが、周りの市と連携した街道かなと思ったので、そういうこともできるとおもしろいと思う。

事務局：今のお話は、何年か前に大津市、草津市、湖南市、甲賀市、栗東市で協議会を作って、マップを作成したことだと思う。交差点にはこういうカーブミラーがあるとか、目印はここにあるとか、細かく書かれていて、特に手で持ちながら歩くのにとてもいいということで、非常に好評なマップだったと聞いている。今、各市の連携協議会事態はないが、文化財関係の部局が連携して、そういったものを作成する予定だと聞いている。おそらく今年度予算で執行されるのではないか。観光事業に向けた補助施策だが、令和 8 年度の予算自体はもう決まっているので、将来に向けてそうしたことも含めて検討していければと思う。

委員　：「馬のまち」をイメージするとき、私もそうだが、つい JRA というイメージになる。この点もこれから先は変えていく必要があるのではないか。歴史を紐解けば、奈良時代、古墳時代に土馬（どば）が出て、生きた馬を埋める代わりに土で作った馬を埋めることで豊作を祈った。栗東って農耕のまちでもある。下戸山は天保一揆も含めて絡んできた場所でもある。上鈎には足利家の鈎の陣があった。街道という流れからすれば、馬は主要な交通手段であったからこそ栗東というのは馬にも絡んできたのだという歴史的な経緯の中で、今現在は JRA

なのだとストーリー化をしていくと、この VR コンテンツも含めて、有効に使えるのではないか。
あと、これは商工会への提案があって、まだ内部協議が進んでいないが、JRA関係者から贈られた鞍とか関連グッズがいろいろな店舗にあるので、オープンマップという手法を使った中で点在させて、観光の方や馬ファンの方が回ることができないだろうかと。商工会に対しては、どこに何があるのかという事業者の協力について依頼が来ている。まだ内部協議が進んでいないのでオープンにはできないが、こういうのも現場に出てもらうためには、関連付けられる方法にもなるのではないか。市民の方々に「馬のまち」を理解していただくためには、この機会は上手に使うべきではないかなと思う。

事務局：今の商工会さんの取り組みは非常に興味があるので、またぜひ情報提供いただいて、共有しながら進めていけたらと思う。よろしくお願いします。

会長　：私個人的には「馬のまち」と言うわりには馬が見えないなと感じるので、もっと立体感があるような、何かイベントだったらいいのではないかと思う。

〈観光イベント等補助事業〉
委員　：イベント補助について、内容の精査やルールなどはこれから決められると思うが、どのようなイベントを想定、イメージしているのか。

事務局：例えば、フォレストマーケットのような、わりと広域的に来てもらえるようなマルシェや、今栗東駅前で夏祭りを手弁当でやっていただいているので、そうした規模の大きなイベントに対して応援したいと考えている。その趣旨だが、今栗東市では子育て世帯の方々が流出しているようだ、という課題がある。若い夫婦や家族に喜んでもらえるような施策という意味では、マルシェとかイベントが特にコロナ禍を受けて非常に少なくなったところをボランティアでがんばっていただいているので、そうしたところへの支援という観点で考えた施策になっている。イベント等の実施で特に課題なのが駐車場や警備の問題で、イベントに直結しないところで労力や費用がかかってくる。そうしたところを少し補助できるといいのではないかと考えている。
もう一つ、今、市役所の中で「ネクスト栗東プロジェクト」という職員の研修や研究をしているグループがあり、実はそこでも同じような提案が上がっていて、若手職員たちが制度設計を考えていることなども反映させながら制度設計できればと考えている。

委員　：資料の主旨にあるように、流出する可能性がある子育て世帯などが、シビックプライドを持てるようなイベントなどを支援するためという話だが、これは結構応募が来るのではないか。いい企画だと思うので、誰が審査するとかも含めた制度設計をしっかりやって、進めていただけるようにぜひお願いしたい。私もある人から「栗東って何もない」「子どもを連れて行くところがない」っていう生の声を聞いたことがある。いろんな団体がやっているところに補助するのもいいし、新たに何か起こそうとする方への応援でもいいだろうし、いいものができるように、協会としても一緒になってやっていきたいと思うので、よろしくお願いします。

〈地域おこし協力隊制度の活用〉

会長　：地域おこし協力隊の制度活用ということで、これは栗東市として初めての取り組みとなるのか。

事務局：初めてだ。

委員　：以前、この会議で話したことがあると思うが、茨城県美浦村に JRA のトレーニングセンターがある。昨年までだったか、元々競馬関係の仕事をしている女性タレントの方が美浦村の地域おこし協力隊に入って、非常に大きな実績を残された。今回、栗東市は２名で、一人は奥金勝の営業役割、もう一人は魅力発信ディレクターということだが、奥金勝という言葉はいろんなところで出てくるが、「馬のまち栗東」であるなら馬にももっと注力してもいいのではないか。美浦村ではそういった事例があって、すごく効果的だったのではないかと思う。こういうことは魅力発信ディレクターの役割に含まれていると思うが、もう少し具体的に「馬のまち」として、市民のシビックプライドという言葉もあるが、例えば子どもたちが「馬がいるまちなのだ」と自慢できるような役割を作っていくのも重要なのではないか。

事務局：栗東では初めての取り組みになるが、地域おこし協力隊の制度の活用に向けた要綱の作成などは、今年度、同時進行で作っているところだ。そのため、商工観光労政課がモデルケース的にちょっと先行して進めるという形になっているのが実情だ。そのような中、私から六つか七つぐらいのアイデアを出して、総務省から派遣されたアドバイザーの方に相談しながら進めてきた。受け入れ地域が一番しっかりしているという観点で、奥こんぜ農泊推進協議会が一番妥当ではないかという意見もいただいて、今回この地域に２名ということで予算化したところだ。一方で、市長も以前から「馬」を推進する地域おこし協力隊員

が必要ではないかと言っている。担当課については、我々が担当課になるという選択肢もあるが、「馬のまち」という観点ではシティプロモーション課であるし、健康運動公園を担当している課もある。いろんな所属がこの制度をうまく使うように市長から指示が出ている状況だ。

委員　：担当課に所属するということをわかっていなかったので、今の説明で理解できた。

委員　：すでに募集をかけて、WEB での説明会も実施したと思うが、進捗状況を教えてほしい。

事務局：現状として、「興味がある」という方が 50 名近くいる。ただ、2 月 13 日のオンライン説明会に参加したのは 20 名強ぐらいで、今まさに実際の応募期間中だが、まだ応募にまでは至っていないというのが現状だ。期間は 3 月 5 日までなので、さらにもう一押し働きかけていく必要があると考えている。

委員　：要項を見ると、正直、年収 300 万円はちょっときついなと感じた。それを 3 年間。これは準公務員扱いなのかどうかわからないが、勤務日数は週 4 日となっているので、能力のある方であればダブルワークなどもできるといった何か魅力を別で発信しないと、いくら興味があっても生活基盤が伴わないと…ということはあるのではないか。

事務局：今の点についてはご指摘のとおりだが、特別交付税措置がいただける政策のため、その範囲内という制約の中で募集をかけているのが実情だ。週 4 日勤務の会計年度任用職員での募集なので、待遇としては公務員と同様の扱いになる。残りの 3 日間については別の仕事をしてもらっても構わない。特に 3 年後の創業とかに向けた個人的な活動をやっていただければと考えている。全国各地で地域おこし協力隊員の募集があるので、「スマウト」というサイト（状況地域に行きたい人と地域の人をマッチングするプラットフォーム）などで情報発信をしながら、「トカイナカ」というキーワードで、都会からも近い田舎という点を押しながら、募集をかけているところだ。

〈地域力創造アドバイザー制度の活用〉

委員　：資料記載のアドバイザーの前神さんが、具体的に我々と話をする機会などはあるのか。

事務局：この観光戦略会議と連携して何かをするということは、現時点では予定していないが、可能性としてはあるのかなと考えている。観光施策において、地域おこし協力隊もそうだが、総務省のいろいろなメニューがある。そういった情報提供や、総務省以外にも地域活性化センターのような関連団体の情報提供等もいただけると考えている。今回、関係人口の創出という点では特に奥金勝では進めていきたいので、その点でもご助言いただきたいと思っている。

委員　：主な取り組み予定に記載の「観光等の活動地域における職員研修等の実施」とあるが、この職員は誰のことなのか。

事務局：令和７年度では、企画政策課での職員の意識改革や、人事課が行う職員の人材育成、そうしたところを切り口にアドバイザーに来ていただいた。ただ、こうした研修は市役所の中だけでは完結しないということで、やはり職員も現地に赴いて実地検証していくことも必要ではないかと考えている。そうした中で、商工観光労政課が担当課になって、現場との接合役という観点から現地で職員研修を行うことも考えられるのではないかという思いで記載している。

委員　：市の職員の皆さんすべてが観光担当の方と同じような意識で来訪者を迎えるというのは難しいと思うが、やはりまちを挙げて観光をやる必要があるのではないか。今、地域間競争が一番大きいのが観光だと思う。観光でしか生きていけないって言われるぐらい、国も挙げてやっている。県も大きな予算をつけてやっていただいている中で、基礎自治体からは危機感とか思いがなかなか伝わっていかない。魅力あるまちするためにも、アドバイザーである前神さんには、こういった職員研修をやりながら市全体に観光の意識付けをしていただきたい。

事務局：ご指摘のとおり、職員もシビックプライドを持つべきだと思うし、昨年度から新規採用職員の研修のうち観光に関する研修を、ボランティア観光ガイドさんに担当いただいている。２年連続でやっているが、非常に好評だ。職員にとってもこの町で働いてよかったと本当に思えるような研修にしていけたらと思っている。

委員　：このアドバイザーの前神さんは、観光にすごく近い立場でアドバイスしてくださるという認識だ。我々は複数回、こうして集まって会議をしてきたが、我々が考えてきたこと、行政がしようとしていること、この方が栗東を見てどう思うのかというのを、一度ぶつけてみたいと思う。例えば、「栗東で観光は無理だ」って意見もあるかもしれない。そうなると労力とお金をかける意味が変わるだ

ろう。観光！観光！って言っても無理かもしれないし。そういうことも率直に聞いてみたい。我々は観光を盛り上げていこうという土台の上でやっているが、プロから見たら「無理だよ」っていう…。だからやめるってことではないが、実際はどのレベルなのかというのも知りたいと思うので、ぜひお話を直接お聞きしたいと思う。

事務局：地域力創造アドバイザーの方に具体的にどのような取り組みをしてもらうのかはこれから詰めていくので、例えばこの会議に出席いただくとか、意見交換の機会を設けるとか、何らかの形で考えていきたい。

委員　：その時にぜひ前神さんにお伝えいただきたいのは、がんばって観光を盛り上げていこうという会議に気を遣わず、無理なら無理と言ってくれと。こういうことに携わってきた方の率直な意見を聞きたい。できあがった土台の上で成果も何も上がらないのに時間とお金と労力を費やすのはもったいないと思うので、プロの方が見てどう思うのかは率直に聞きたいと思う。

事務局：この方は観光のプロではないかもしれない。地域活性化、地域力創造という分野の専門家で、各地で地域おこしに携わっている方だが、たくさんの引き出しをお持ちなので、何が我々にフィットするのかというところになろうかと思う。そうした意味でも、ぜひ直接お話できる機会は作っていきたい。

会長　：ここまで協議事項として新しい事業についてのご意見をいただいた。先ほど委員からご意見あったが、継続のものについてはどうするか。今、意見を伺ったほうがいいだろうか。

事務局：はい。ご意見あれば、おっしゃっていただきたい。
あと、私の説明が漏れていたので追加したい。一定予算もつけながら報告できていないのが、特名産品の開発プロジェクトで、立命館大学との連携事業を来年度から本格的に進めたいと考えている。先日、食マネジメント学部の小沢先生と協議をしてきたが、非常に前向きに捉えていただいていて、こんにゃく、栗東いちじく、味噌田楽を素材にした商品開発をぜひやりましょうという話になっている。新年度、具体的に事業を進めていきたい。

委員　：商工会の女性部の活動で菌（くさびら）神社を取り上げようということがあった。スポーツ食学的には、菌神社は本当に重要な神社だということも聞いているので、このあたりも少し視野に入れておいていただいて、女性部との連携と

いうのもよければお願いしたい。

6．その他

○田中副会長より、第３回会議で（一社）栗東市観光協会として説明した観光地域づくり法人（DMO）について進捗報告、および鶴田委員（栗東市商工会）から補足説明（省略）

【おもな意見交換】

特になし

○事務局から「栗東市金勝山周辺施設のあり方検討報告書」について説明（追加資料２点）（省略）

【おもな意見交換】

委員　：この件については、市役所内部だけで検討したのか、外部の意見等も踏まえて検討したのか。

事務局：令和４年度当時は外部の審議会でご意見をいただき、アンケート調査等も実施している。令和６年度以降は、内部協議を中心に施設のあり方を検討し、令和７年度の６月に中間報告として議会に報告した後に、今年度中に方向性を出すという約束だったため、12 月までに取りまとめを行った。当初は外部の方に関わっていただき、途中からは内部会議に変わっているところだ。

委員　：結論は出ている雰囲気になっているようだが、私も過去を遡ってみたら、幼稚園・保育園の民間移行の際は、審議会を設けて答申書を出して裏付けをした上で進んでいったと思っている。結果がどうかは別としても、そういう意見はしっかりと踏まえておいた方が地元説明会や指定管理を受けている事業者への説明でも、強い力になったのではないか。結果が出たことをどうこう言うのは駄目だと思うが、一市民として感じたところだ。

事務局：私が公立保育園の民営化を担当していた当時、公立保育園の大橋保育園と大宝保育園を廃止して、今は大宝カナリア保育園として、民間の運営に変えた。確かにこの件では審議会による検討の答申書をいただいていたが、「指定管理が望ましい」という書き方になっていた。しかし、指定管理は年次で契約が切れるため、安定的な運営が望まれる福祉施設にはそぐわないので、当時、私もかなり悩んだ。神戸の裁判所で、指定管理は保育園運営には望ましくないという判

例が出たので、審議会答申は白紙にさせていただいて、民営化した。途中までは混乱したが、最終的には保護者会からも信頼できる内容になったとお褒めいただいた。その後も５年間、経過報告として進捗状況を測り、ご意見もいただいて、問題なく移行できたかなと思っている。
今回もこの施設分については最終的に議会の議決が必要になる。廃止、条例改正、無償譲渡のいずれの場合でも、全て議会の議決が必要なので、現在は市の方向性として出しているが、最終的に市民の総意として議会の議決が得られるかどうかというところまで、地元の説明会を尽くしながら、議員の理解を得ていく中で進めていきたいというのが、今の段階だ。より良き民間施設、民間事業者を誘致することが我々の責任と考え、集客性を高めた上でお客様が循環できるようなシステムになればという思いで一生懸命やっていきたい。そのために今の観光戦略もあり、本来では施設が建てられない市街化調整区域についての都市計画法の解釈の運用についても工夫して、民間事業者として施設が利用できるような窓を開けることができたというところで、３本柱で並行して動かしている状況だ。

委員　：この件は令和６年度後半の半年間で４～５回、あり方検討という形で会議に出席した。その後、梨の礫でいきなりこれが出てきたという印象だ。今回の観光振興戦略の中で、金勝山のハイキングや修繕なんかもしっかりやっていこうという話だった。ハイキングで来た人が道の駅で休憩するとか、重要な拠点だと思う。運営費ということだけを見れば、費用がかかるというのはわかるが、戦略を立てて来訪者を増やしてハイキングの道もきれいにしようとしているときに、その一つの拠点である施設を閉めるという判断は慎重にやっていただきたい。民間譲渡しか道がないという話だが、この観光戦略は市が作っている事業ではないのか。交流人口を増やすこと、シビックプライド、市役所職員への研修でまちに対する意識を高めてもらう…すべて繋がっていて、市としてやっていこうと意識が高まっている中で、なぜこういう施設を閉めるのか、単純に疑問だ。
市はいろんなことを考えてやってくれているとは思うが、一方では財政が厳しいから駄目なものは切っていく…それはまあ、ビジネスやっている人たちも皆そうだけれど、こういうことについては本当に慎重にやっていただきたい。私もこれは寝耳に水で聞いたので、何と言うか、肩が落ちるというか、気が抜けるというか、そんな感じにも見える。この観光戦略を実現するには、この道の駅の存在は本当に大事だと私は思う。私も言える場があればどんどん言うが、部長（事務局）からも、やめることが前提じゃない、民間委託もあるという話なので、今後いろいろな方策があるのかもしれないが、民間事業者を集めるに

しても、施設を積極的に生かしていく方向でやってほしい。

事務局：説明の繰り返しになるが、単に施設を廃止するのではなく、さらに活性化することが目的だ。今の道の駅でやっている駐車場やトイレ、ベビーコーナーなどは条件付けで残す必要もあるし、情報発信なども担っていただく必要がある。ただ、民設・民営でやろうと思うと道の駅の看板がつけられないということだ。農林課の立場からだと、不法投棄を防止するために、来年度、林道は閉鎖する。自転車は通れるが、車は通れないようにする方向で予算付けして、森林組合さんなどと協議している。栗東の林道はアスファルトなので、山奥まで行ってゴミを捨てられてしまう。そういうことを防止して、綺麗な山を維持するために、車止めを各所に設置して山奥まで行けないような取り組みや、山にお金を投資できるような取り組みを進めている。道の駅を廃止して、施設を何もかもなくしてしまうというのではなく、さらに活性化するための内容だと思っている。
駐車場問題についても、昨年６月、県に天馬の森の外周道路を縦列駐車できないか、貸してもらえないか、という協議を行ったが、ガードマンをつけるという条件であれば、ということだった。収益を得るために駐車場を作るのに支出を伴うことになるので黙って貸してもらえないかと言ったが、ちょっと難しいという回答だった。栗東側からの駐車場問題は解決しなければならないと思っているので、そういった意味でも、山の施設を廃止ではなく活性化したいという思いで取り組んでいる。施設の老朽化は進んでいるが、本当にボロボロになる前に手が打てないかという思いもあるので、今のタイミングが一番いいのではないかと思っている。

委員　：とにかく手を尽くしてもらいたい。あらゆる可能性を探ってほしい。

事務局：先日も指定管理者のサウンディングを実施して、かなりご意見をいただいたので、条例改正の参考になると思っている。今後、民間で関心のあるところのサウンディング等も実施して、いろいろなお知恵をいただく中で活性化できればと思っている。

○事務局より次年度の観光振興戦略会議について説明（省略）

７．閉会

（田中副会長によるあいさつ　省略）

以上